

2月13日(水) 本年度第30回(通算2669回) 12時30分～ 釧路プリンスホテル

『国際奉仕』

担当/国際奉仕委員会

☆お客様と来訪ロータリアン

- ・千家 盛雄様
- ・松田 敬吾君 (熊本ロータリークラブ)

☆お客様と来訪ロータリアン

- ・北川 健二君 2月8日 釧路南ロータリークラブ

☆出席報告【会員総数63名 免除7名 出席計算に用いた会員数63名】

本日の出席者 29名 46%

☆ニコニコ献金

- ・高橋 貢君 ～ 千家講師、本日の講話よろしくお願ひします。
- ・小林 裕幸君 ～ 千家様、よろしくお願ひいたします。
- ・丹葉 一恵君 ～ 全日本女子アイスホッケー、オリンピック出場おめでとうござひます。
- ・坂入 信行君 ～ 丹葉委員長、本日よろしくおねがひします。
- ・中村 祐昭君 ～ 千田さん、シカ肉が無ひです。
- ・小野寺 英夫君～ 春が待ち遠しいです。

☆会長挨拶☆ 《高橋会長》



皆さんこんにちは！

前回はクラブ協議会上期報告並びに下期の予定などお話しありがとうございました。私は先週、仕事で札幌にいましたが毎日雪で除雪が追いつかない状態で大変でした。釧路も少し雪化粧しましたが雪が少なく天気も良く過ごしやすい街だと感じました。ただし、活気の無さは実に寂しいものであります。すべてに自粛ムードで「氷まつり」から「冬まつり」、冬のイルミネーションも縮小、とても残念に思ひます。

今年度会長テーマ「奉仕の輪を広げ、奉仕の理念で地域に活性を」を実践し、北ロータリークラブのロータリアンの方には是非、活性化に協力してもらいたいと思ひます。

先日、RI2580地区東京RCの過去会長さんと話す機会がありました。その方はきつてのロータリアンで社訓にもロータリーを取り入れている素晴らしい方です。それは何故かと言うと、下積み時代からコツコツ努力して今現在上場会社の社長をしているからです。地区の青少年プログラム委員長を長年おやりになり、昨年は地区の国際奉仕委員長を務められました。3年後のガバナーにおされているとのことでした。その方と少しお話をさせて頂きロータリーの素晴らしさを共感して参りました。

今日は国際奉仕の例会ではありますが、国際奉仕のWCS（世界社会奉仕）が2010年11月のRIの理事会で廃止されたのはご存じでしょうか？1962年に発足したWCSですが当時の国際感覚として世界の多くのロータリークラブや地区が国際奉仕を推進させるための情報が不足していた為のものです。半世紀もおこなわれてきたWCSも誰もがパスポートをもって渡航できる時代に役割を終えた形となりました。WCSは過去のものになりましたがロータリー歴史として覚えておいてください。

難しい話になりましたが会長挨拶といたします。

☆幹事報告☆

《小林幹事》



①本日に回覧について、2月例会プログラムが白糠・弟子屈の各ロータリークラブより届いております。

②1月の会報が弟子屈・厚岸の各ロータリークラブより届いております。

国際奉仕

千家 盛雄 氏



- ・阿寒町立阿寒湖中学校木彫り教室 講師(30年)
- ・阿寒町立阿寒湖中学校 学校評議委員(平成17年～現在)
- ・財団法人アイヌ文化振興 研究推進機構アドバイザー
- ・あかん遊久の里 鶴雅 北の語り部(平成16年～現在)
- ・北海道教育庁アイヌ民俗文化伝承講座講師・准講師の選考委員

只今ご紹介いただきました千家と申します。生まれは釧路で釧路育ちで阿寒で50年程暮らしております。その中でアイヌ文化に触れました。ユーカラ劇、アイヌ古式舞踊など色々な事をやりました。現在は、あかんの鶴雅で北の語り部を行っております。

私が一番可愛がってもらったのは、釧路の大楽毛出身で丹葉節郎という人なんです。釧路の文化賞も頂き公民館の館長も務めた方なので、ご存じの方も多いかと思います。丹葉節郎は教育者で、色々な仲間と共に夜も寝ないで若者を育てた揚げていきました。しかし、戦争で育て上げた若者が帰らぬ人となっていく現実のなかで、教育などという問題ではないと訴えながら釧路に帰ってきて17年間公民館の館長を務めました。その中で色々な事をやりました。例えば、北海道の名づけ親、松浦武史郎という方が今から150年以上前に北海道にやってきて、20年間で9000ヶ所以上の地名を調べ、出来上がった時に北海道と言う名前を付けました。松浦武史郎の銅像を造ったのも丹葉節郎なんです。その銅像がたつ場所は、松浦武史郎が釧路の一番高いところから阿寒を見てアイヌに聞くんです。「あっちは何で言う?」「阿寒という」「どうゆう意味だ」「不変不動である」いつも変わらないと言う意味があるとアイヌが説明した場所に、銅像は建って居るんです。今は違う公園に銅像は移されています。さらに、石川啄木の碑は最初は駅前に造りましたが、現在は川の傍に移されています。このように色々なものを残しています。阿寒のマリモ祭りもそうです。20年経過した頃にユーカラを始めました。そして、ユネスコで阿寒のユーカラを披露するときも、丹葉節郎は尽力してくれました。アイヌのユーカラは命の大切さを訴えています。その中でもカムイユーカラと言って一番上の位の高いカムイユーカラをユーカラ劇という物して世界に広めるために丹葉節郎が会長になり活動しました。パリのユネスコの本部で披露したりしました。そうやって丹葉節郎は世界の平和、戦争を無くす為に山本太助らと一緒に奮闘しました。そして、1958年国連憲章が制定され、人権を守る心が平和をつくる、一人一人の人権を守ってはじめて世界平和が生まれる。一人一人の心が大切なんだと丹葉節郎は言い続けました。また、ユネスコは戦争を無くそうと出来ました。世界遺産を集めるのがユネスコでは無いのです。戦争は何も悪いことをしてないのに殺され、世界の素晴らしい物がどんどん壊される、そんな状態を見てユネスコは女性が考えたものなんです。ユネスコにはユネスコ憲章があります。戦争は一人一人の心の中に生まれるものであるから、一人一人の心の中に平和の砦を築かなければならない。一人の人間の考えで大勢の人を殺した人も居ます。一人の人間の考えで大勢の人の命をすくった人も居ます。

最後になりますが、人間の命の大切さが世界平和に繋がり、世界平和は一人一人の考えが大事だと言うことをこれからも訴え続けます。ご静聴有り難うございました。